

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 30 日現在

機関番号：23702

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23593388

研究課題名(和文)市町村保健師の活動の充実や実践能力向上につながる活動評価方法の開発

研究課題名(英文)The Development of Practice Evaluation Methods Enhances Nursing Competency and Improves Practices among Municipal Public Health Nurses

研究代表者

松下 光子(Matsushita, Mitsuko)

岐阜県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：60326113

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円、(間接経費) 570,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、市町村保健師が日常活動の中で実施でき、活動の充実や改善と実践能力向上につながる活動評価方法の開発である。保健師の行政評価と保健師活動評価の現状を調査し、両者が完全に一致するものではないことを確認した。研究者らが作成した活動評価シート試案と質問項目を用いて、市町村保健師とともに評価を実施し、活動評価シートと質問項目を改良した。そして、1)活動目的の明確化の必要性に気づくことができる、2)保健事業・活動について、行政の活動としての位置づけを明確にすることができる、3)事業や活動の目的を意識した話し合いを通して保健師が相互に学びあうことができる活動評価方法として開発した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop practice evaluation methods for public health nursing that can be implemented by municipal public health nurses (PHNs) in daily practice thus enhancing their nursing competency. We investigated actual performance evaluations in the local government and practice evaluations of public health nursing by PHNs, taking care to discriminate between performance and practice evaluation.

Practice evaluations with PHNs were performed using practice evaluation sheets containing questions proposed by researchers. And we improved them. The practice evaluation sheets and questions developed had the following characteristics: PHNs are aware of the necessity in clarifying the purpose of their practice, PHNs address their practice within the administrative activities of the local government, and PHNs learn together through discussion of the purpose of practices.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：市町村保健師活動 評価方法

1. 研究開始当初の背景

本研究において目指す評価方法は、複数の保健事業を組み合わせる地域での健康課題への対応を基盤とする活動の評価、看護活動であり行政活動である保健師活動の評価、保健師が活動する際の思考過程を支援する評価である。国内で1997年～2008年前半に報告された保健師活動評価に関する調査研究では、1つの事業を評価した報告が多く、保健師活動の評価方法開発に関する報告はごくわずかであった(松下, 2009)。また、開発した評価方法の広い活用には至っておらず、保健師活動について一定の評価方法が確立できているとはいえない現状である。国外、特に看護研究の先進地域と思われるアメリカ、カナダ、イギリスなどにおいても、地域全体を対象とした看護職の活動の評価方法を追究する必要性が指摘されている(Lawrieら, 2004)。

本研究着想の発端は、研究代表者が大学教員として複数の市町村の保健師活動の現状を知る中で、保健師が目指して熱心に取り組んできたことは、住民の言動に成果として現れていると感じた経験である。この経験を手がかりとし、平成19、20年に、保健師自身が地域や住民が変化したと感じた活動事例の聞き取り調査を実施し、活動評価における考え方と方法を整理し、活動評価シート試案を作成した。この活動評価シート試案を活用するためには、保健師自身が自分の判断を表現し、記載情報を整理できる必要がある。そこで、本研究では、記載情報の整理を助ける仕組みを開発して活動評価を試行し、評価のための道具として整えることを目指した。

また、近年、行政評価への取り組みが進み、市町村では保健師も行政職員として行政評価を行っていると考えられる。行政評価導入の目的は、行政活動の改善や住民への説明責任を果たすことが主であり(島田, 1999)、本研究が目指す保健師活動の充実や改善は、

行政評価の目的と一致する。しかし、行政評価と保健師活動評価の関連はほとんど追究されておらず、効率的効果的な活動のために両者を有効に連動させる方法の検討が必要と考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、市町村保健師が日常活動の中で実施でき、その後の活動の充実や改善と保健師の実践能力向上につながる活動評価方法を開発することである。保健師活動の評価の必要性は指摘されているが、活動評価の方法が確立されているとはいえない現状にある。近年、市町村において導入が進む行政評価と保健師活動評価の関連も検討されていない。本研究では、筆者らが作成した、看護過程の展開と行政活動の段階を反映できる活動評価シート試案を用いて、市町村保健師とともに評価を実施し、活動評価に活用できる道具として開発する。同時に、保健師活動の展開を導く思考過程と行政活動であり看護活動である保健師活動の構造を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 保健師の行政評価のかかわりの現状に関するアンケート調査

市町村保健師の行政評価および保健師活動評価への取り組み実態を明らかにすることを目的として、A県内42市町村において保健部門の管理的立場にある保健師各1名を対象に無記名の郵送質問紙調査を行った。

(2) 保健師の行政評価のかかわりの現状に関する聞き取り調査

基礎自治体である市町村に所属する保健師の行政評価への取り組みと保健師活動評価の実施状況を明らかにすることを目的として、行政評価に先進的に取り組む6基礎自治体の保健部門所属の管理的立場の保健師を対象に面接聞き取り調査を実施した。

(3) 保健師活動評価に関する文献検討

保健師活動評価の実際を確認すること、開発を目指す評価方法の位置づけや特徴を検討することを目的として、1998～2011年分の文献を検討した。

(4) 活動評価の試行調査

市町村保健師と協働した活動評価の実施と評価方法の改良

研究者らが作成した活動評価シート試案と質問項目を用いて、4市町村の保健師とともに評価を実施し、活動評価に活用できるツールとして開発したその過程を整理した。

試行後の保健師への意見聞き取り調査

活動評価シート試案と質問項目による保健師活動評価の意義を明らかにする、活動評価試案が実際に活用できるツールとなるか検討することを目的として、活動評価を実施した4市町村12名の保健師を対象に聞き取り調査を行った。

4. 研究成果

(1) 保健師の行政評価のかかわりの現状に関するアンケート調査

A県内42市町村において保健部門の管理的立場にある保健師各1名を対象に無記名の郵送質問紙調査を行い、30件の有効回答を得た。

行政評価を実施している市町村19カ所中保健師がかかわる市町村は14カ所、行政評価方法は事務事業評価が16カ所と最も多かった。行政評価と保健師活動評価との関連は19カ所中16カ所が関連付ける必要があると回答した。保健師活動評価の実施状況は30カ所中26カ所86.7%が職場内での話し合う機会を持つことを保健師活動評価の機会として意識的に取り組み、24カ所80.0%が評価の際は保健師間の意見交換の機会となるように意識していた。また、21カ所70.0%が実績だけではなく成果評価を行うことを意識していたが、事業や活動の目的に照らしての評価を意識する割合は17カ所56.7%、地域のヘルスケアニーズに基づく活動にな

るように意識するは16カ所53.3%と、割合が低かった。

行政評価手法が市町村により異なることから、評価手法の統一は難しいが、活動目的を達成しているか、ヘルスケアニーズに基づく活動になっているかを保健師があまり意識していないのであれば、行政評価のPDCAサイクルと看護過程に共通する評価サイクルを意識できる評価方法が必要である。

(2) 保健師の行政評価のかかわりの現状に関する聞き取り調査

行政評価に先進的に取り組む6基礎自治体の保健部門所属の管理的立場の保健師9名を対象に面接聞き取り調査を実施し、聞き取り内容を整理した。

行政評価方法は、5市が総合計画推進の事業計画・評価(事務事業評価)、1市は総合計画の年度ごとの評価は今後実施であった。全市で保健師が計画や評価にかかわっていた。保健師活動の評価方法は、5市は年度ごとの報告書の作成が確認できた。2市は行政評価とは異なる保健師活動評価シートを作成しており、2市とも地区活動用の評価シートを作っていた。1市はさらに保健師としての事業評価シートを作っていた。行政評価と保健師活動評価の関連について、行政評価は、保健師活動の改善や行政内や住民に理解してもらうための機会ととらえる意見があった。

行政評価と保健師活動評価は完全に一致するものではないと考えられた。行政評価による成果評価に加えて、専門職としての判断や実践の振り返り、活動を他者に説明できる評価方法が必要である。

(3) 保健師活動評価に関する文献検討

医学中央雑誌を用いて評価×看護×保健師の検索語を用いて、1998～2008年の10年間について2008年9月に、2008～2011年について2011年11月に検索を行った。それぞれ332文献、191文献が抽出された。1998～2008年の検索で抽出した全文献をまず論文

タイトルから分類し、保健師活動における評価・測定に関するものに分類した文献を再度文献のタイトルから分類した。2008～2011年分も同様に分類し、新しい分類項目はなかった。さらに、保健事業・地域での活動を評価する方法等に分類した72文献を取り寄せて内容を読み、再度詳細に分類整理した。

保健師活動における評価・測定に関するものに分類した文献は、1998～2007年は、実施した活動・事業の評価に分類した文献数が保健事業・地域での活動を評価する方法に分類した文献数の2倍であったが、2008～2011年では、両者がほぼ同じ件数となった。取り寄せた72文献は、援助者側の活動に関すること40文献、援助対象に関すること12文献、その他20文献に分かれた。援助者側の活動に関することは、さらに、事業、特定の健康課題への取り組み等5項目に分類できた。

保健師活動評価方法を検討する文献が増加していた。また、評価方法開発においては、地域の健康課題の変化を評価する、予算措置された事業以外の活動の評価、看護過程を展開させる評価方法の必要性が確認できた。

(4) 活動評価の試行調査

市町村保健師と協働した活動評価の実施と評価方法の改良

研究者らが作成した活動評価シート試案と質問項目を用いて、市町村保健師とともに評価を実施し、活動評価に活用できるツールとして開発したその過程を整理した。活動評価方法の開発は、行政評価に対して先進的な取り組みをしている5か所の基礎自治体保健師への意見聴取、研究参加者である市町村保健師と研究者との共同による保健師活動評価を4か所の市町村において実施、共同による保健師活動評価を実施した保健師の聞き取り調査の実施、共同研究者による検討の4つの方法で行った。 、 、 は1か所の市町村において保健師活動評価を実施するごとに繰り返した。

活動評価シートは、先行研究で開発したものをVer.1とし、最終的にはVer.8まで改善した。Ver.1からの変更点は、評価しようとする事業の目的・目標を明確にし、これを基軸に情報を整理できるようにした、保健師が取り組みやすい工夫をした、保健師の思考プロセスに沿って情報を記載できるようシートの欄を配置し、記載を助ける質問項目の順序等を工夫した、の3点である。活動評価シートを記載するための質問項目は、シートの改善に加えて表現の調整を繰り返し、最終版を作成した。

最終版として作成した活動評価方法の特徴は、評価する事業と上位計画との関連を考えられるようにする、保健師間で話し合うことにより能力向上も意図した活動評価の2点と考える。

試行後の保健師への意見の聞き取り調査

活動評価シート試案による活動評価を実施した4市町村12名の保健師を対象に1名30分程度の聞き取りを行った。聞き取りは了解を得て録音し、逐語録を作成した。発言の主旨と判断できる内容を要約して記述し、質問内容ごとに要約内容の類似性に沿って分類整理した。

保健師間で話し合いながら活動を評価してみたの意見・感想は、評価を実施して達成・理解できたことに関して「保健師の考え・事業の方向性、位置づけが整理できた」等、保健師としての能力向上に役立つかは、「複数の保健師で話し合うことで複数の考えや視点に気づくことができる」「事業を見る視点、地域を見る視点、保健師の役割がわかった」等、また、本方法を円滑に導入するためのアイデアとして、シートの記入方法や話し合いの方法への意見が出された。

開発した方法による活動評価の意義は、目的目標を意識すること、保健師同士が話し合うことにより得られるものがあることが確認できた。また、保健師としての実践能力向

上という視点からの意義は、シートというツールを使うことで事業の目標や成り立ちを意識化することができること、複数の保健師で話し合うことにより同時にそれぞれの保健師の能力向上が図れることが確認できた。

(5) 考察

開発した活動評価方法の特徴は、活動目的の明確化の必要性に気づくことができる、

保健事業・活動について、行政の活動としての位置づけを明確にすることができる、事業や活動の目的を意識した話し合いを通して保健師が相互に学びあうことができる、の3点と考える。

また、本研究の取り組みから検討した看護活動であり行政活動である保健師活動の特徴は、行政の中で保健師活動が伝わりやすい表現方法を工夫する必要がある、住民が安心して暮らせることを目指して多様な協働が求められる、行政活動を看護の考え方をもちて実施する、の3点である。

さらに、開発した活動評価方法についてさらに改善が必要と思われる点は、活動の根拠となる現状とめざす姿を整理するという地区診断にかかわる内容をわかりやすくすること、活動の目的を明確にして整理する方法を明確にすること、行政内部外部に説明する資料作成との連動を検討することである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

大井靖子、松下光子、大川眞智子、山田洋子、種村真衣、市町村保健師の行政評価および保健師活動評価への取り組みの実態、岐阜県立看護大学紀要、査読有、第13巻1号、2013、pp.161-166 .

http://www.gifu-cn.ac.jp/information/13-01/1301_P161.pdf

種村真衣、松下光子、大川眞智子、山田洋子、大井靖子、活動評価方法の開発に向けた保健師活動評価に関する文献の検討、岐阜県立看護大学紀要、査読有、第13巻1号、2013、173-180 .

http://www.gifu-cn.ac.jp/information/13-01/1301_P173.pdf

松下光子、大井靖子、種村真衣、山田洋子、大川眞智子、6基礎自治体における保健師

の行政評価への取り組みと保健師活動評価の実施状況

、岐阜県立看護大学紀要、査読有、第14巻1号、2014、149-156 .

所属大学ホームページに掲載予定。

〔学会発表〕(計1件)

種村真衣、2008年～2011年前半の保健師活動評価に関する文献の検討、日本地域看護学会第15回学術集会、2012年6月23日、聖路加看護大学 .

〔その他〕

所属大学のホームページにおける活動評価シートと質問項目の公表を検討中。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松下 光子 (MATSUSHITA, Mitsuko)
岐阜県立看護大学・看護学部・教授
研究者番号：60326113

(2) 連携研究者

大井 靖子 (OHI, Yasuko)
岐阜県立看護大学・看護学部・講師
研究者番号：60326121

山田 洋子 (YAMADA, Yoko)
岐阜県立看護大学・看護学部・講師
研究者番号：50292686

大川 眞智子 (OHKAWA, Machiko)
岐阜県立看護大学・看護学部・准教授
研究者番号：10253923
(平成23年度)

種村 真衣 (TANEMURA, Mai)
岐阜県立看護大学・看護学部・助教
研究者番号：80625260
(平成23・24年度)

文献

Lawrie Elliott, et. al. (2004) .The effectiveness of public health nursing:the problems and solutions in carrying out a review of systematic reviews. Journal of Advanced Nursing,45(2),117-125.

松下光子.(2009).1997年～2008年前半の保健師活動評価に関する文献の検討.日本地域看護学会第12回学術集会講演集,118.

島田晴雄.(1999).行政評価スマート・ローカル・ガバメント(pp.42-44).東洋経済新報社.